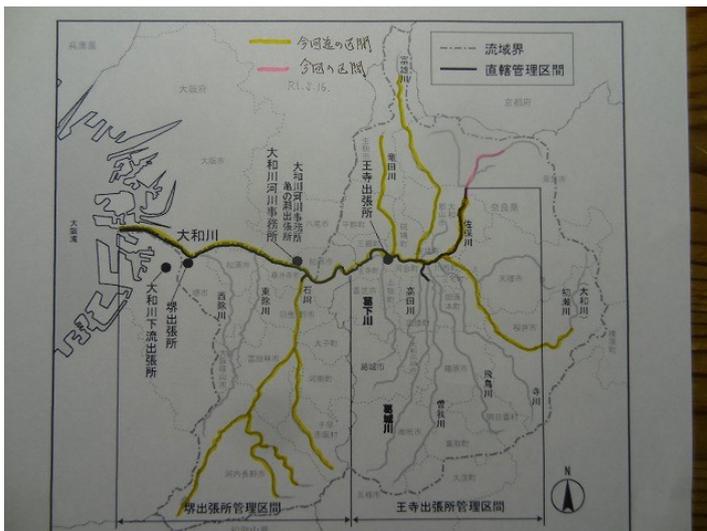


日本あちこち河川遡行記（第263回）

奈良1-3. 佐保川（その2） 前半 令和1年5月16日（木）晴

佐保川の続きを歩くため JR 郡山駅に再びやって来た。いつもは金曜日なのであるが、今週は「おとなび早特切符こだま指定席」が取れず木曜日となった。この遡行記は高校の同期生のブログに投稿、掲載されており、最近歩いた所にご縁のある同期生からの書き込みが有り、特に郡山に住まわれている方は先日見た地藏堂の近くに居られるとのことで、どこかでお会いする可能性もありそうだ。

郡山駅は最近橋上駅舎化されたようで、白とネズミ色の落ち着いた和風の立派な駅である。法隆寺駅舎といい、ここ郡山駅舎と立派な奈良らしい駅舎が続いている。続いていると言え、**「大和路快速」**に乗り**「新今宮」**を出ると、**「天王寺」**、**「久宝寺」**、**「王寺」**、**「法隆寺」**と停車する駅に連続して**「寺」**が付いている。出来過ぎやない。



01. 今回の調査区間位置図



02. JR 郡山駅（東口）から開始

東口から次の「郡山大橋」に向かうと直ぐに規模は小さいが郡山名物の金魚の池が線路沿いに有る。狭い仕切り畔の上を白鷺が獲物を探して抜き足、差し足で歩いている。水深が有るからか池には入らず上から探している。金魚はそれを知ってか底の見えない所に隠れているようだ。



03. 駅近くにも金魚の池が有る



04. ミニ詐欺師が金魚を探している

500m ほど歩くと次の橋が川を越えている。ここまでの橋が土手と同じ高さに路面の有る橋であったが、郡山大橋は土手のはるか上を横断している。はてな？、どうやらこの付近の土手を将来高くする計画が有り、先取りして橋の高さを決めたのだろうと判断して右岸側を北に向かう。

対岸の水門の上には先日見たのと同種の平城小屋が乗っている。屋根の上の両端に「鷗尾」が有れば満点なのだがな。



05. 郡山大橋は土手の遥か上を越えて



07. 鷗尾が無いのが惜しい

次の「羅城門橋」の近くにやって来て羅城門跡の解説板を探すがなかなか見つからない。橋に続く高架橋の橋脚を見下ろせば、なんやこんな所に有るやん！カメラの望遠を利かせてカシャ。

右岸側から羅城門橋を渡り左岸側に向かうと、橋の中央部の高欄に同じような解説板がある。橋の上からは復元された「朱雀門」、「太極殿」が見えると書かれているが、多くの建物で見えるわけが無いぞ。「羅城門」と言えば京の「羅生門」を冠した映画の主役の一人「京マチ子」さんが亡くなられた。ここで何かの縁を感じる。



07.高架橋の壁沿いに「羅城門」の解説板が



08.「羅城門橋」の高欄にも有った

橋を渡り左岸側の管理路を上流に向かう。郡山市から奈良市に入る。次の「打合橋」の手前になると、国と県との管理境界標柱が立っている。10以上の府県を歩いてきたが、この程度の小さな川のここまでの長い距離を国が管理しているのは異例だ。昨年大洪水を起こした岡山県の「小田川」の方がはるかに大規模であるが、高梁川への合流点付近以外は全て県管理である。右岸側には二次支流の「秋篠川」が排水溝のような姿で西から合流している。



09.「秋篠川」の合流点が管理境

地形図を見ると、「秋篠川、寺」、「高円山」、「三笠山」、と宮家と縁の有る地名が多く見受けられる。流石、大和、奈良だ。「打合橋」に来て再度右岸に向かう。橋際では一時停止違反を取り締まる県警のパトカーが停まり警官がそちらを注視している。淀川での速度違反取締以来の取り締まりとの遭遇だ。橋名は「うちあい」と読む。向こうの警官と撃合いをするのでは無いが珍しい名前の橋だ。



10. 「打合橋」は「うちあいはし」と読む

右岸側の土手道は県管理になったとたんに管理用道路から一般道路となり車と遭遇する。またまた嫌な道になる。いっそのことこの先全部国管理にしてくれー。すぐにJR関西線（西は「大和路線」と称している）の踏切に着く。ここまで近鉄の二つの橋は管理路の行く手を遮断していたが、JRの橋では踏切で先に進める。橋は複線の中路板桁橋であるが主桁の本数が3本である。普通は1線の両側に桁の有る4主桁であるが、ここは真ん中を1本に集約している。その分中央桁は外桁よりも高さが高い。やがて警報機が鳴りだし暫し待つと快速が通過して行く。関西線の15分毎の快速は全て221系を集中配備している。ステンレス車体全盛の世の中、クリーム色に金の帯の塗装は奈良に似合う。これも10年ほどすると岡山に払い下げしてくるのだろう。



11. 複線の主桁は4本では無く3本だ、
アナ珍しヤ!

12. 「大和路快速通過」

踏切を越えて北に進むと両側の土手の桜が出迎えてくれる。佐保川名物の桜並木がここから始まっている。右岸に来ると一時的に郡山市となり土手下の西に大きな看板が立っている。ズームを利かせてカシャ。耕作放棄されかかった田圃を遊ばせないように関係者が耕作を続けているとのことである。



13. ここから佐保川名物、桜並木が
始まる

14. 珍しい看板を見つけ!

ここまで日陰が無い道であったが桜並木のお陰で日陰が出来、暑さも和らぎ快適に歩ける。日光などの松並木の効用の一つに夏の暑さ対策も考えられる。手元の地形図を「大和郡山」から「奈良」に変えると、左岸（東）から「岩井川」が合流してくる。春日山の南側から流れてくる川である。土手下と土手との高低差が無くなり民家も増えてくる。「不審者出没 注意」と書かれた掲示の下に幅が超狭い橋が架かっている。一人一人が歩ける幅で太った人が通ると反対側に向かう人は対岸で待たされそう。私は不審者ではありませんぞ。



15. 東から「岩井川」が合流

16. この橋では片側交互交通になります

[続く]